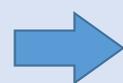


リスク管理措置（飼料規制、食肉処理工程）及び牛群のBSE感染状況を確認

- ・野外でのBSE感染牛が平均的に摂取したであろうBSEプリオンの量は英国のBSE感染牛の脳幹100 mg～1 g相当と推察されていること
- ・BSE感染牛の脳幹1gを経口投与された牛の脳に異常プリオンたん白質は42か月目(46か月齢相当以上)までは不検出であること など

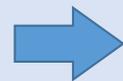


検査対象月齢を「20か月齢」から「30か月齢」に変更した場合のリスクの差は、あったとしても非常に小さく、人への健康影響は無視できる。

## 2013年5月・2016年8月評価【第2段階】

点検表でリスク管理措置（輸入規制、飼料規制等、食肉処理工程）を確認  
牛群のBSE感染状況を確認

- |        |   |                                 |
|--------|---|---------------------------------|
| 定型BSE  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・BSE感染牛は<u>満11歳になるまでにほとんど(約97%)が検出</u></li> <li>・11年以内に出生した牛に定型BSEは確認されていない</li> </ul>   | <p>（今後、定型BSEが発生する可能性は極めて低い）</p> |
| 非定型BSE | <ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>疫学的に非定型BSEと人のプリオン病との関連を示唆する報告はない</u></li> <li>・非定型BSEの<u>発生頻度は極めて低い</u></li> <li>・H型について、動物実験では人への感染の可能性は確認できない</li> <li>・L型について、SRM以外の組織の感染性は極めて低い</li> </ul> |                                 |



健康牛のBSE検査を廃止した場合のリスクの差は、非常に小さく、人への健康影響は無視できる。

国内の2012年10月評価と同様の考え方にに基づき、以下の国を評価

米国、カナダ、フランス、オランダ、アイルランド、ポーランド、スウェーデン、ノルウェー、デンマーク、スイス、リヒテンシュタイン、イタリア、オーストリア、英国

30か月齢以下の牛の肉等について